

喜茂別町社会福祉協議会と共催し、きもべつ喜らめきの郷内で認知症カフェをオープンしました。認知症カフェは、認知症の人やその家族、地域の住民、専門職者が気軽に集い、お茶を飲みながら交流や相談のできる憩いの場です。孤立を防ぐこと、介護の悩み相談、正しい情報の共有、地域交流を目的として、全国各地で設置されています。

定期開催が望ましいところですが、まずはやってみようというプレオープン。



喜らめき銀河タイムス

きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

和やかな雰囲気で

みんなで話し合った認知症



笑顔の輪が咲くまちづくり

～認知症カフェ、オープンしました。～

認知症についての理解促進はもちろんですが、喜茂別町にお住いの皆さまに、喜らめきの郷に足を運んでもらいたい、その想いも強くあり今回の開催に至りました。入居者との久々の面会に笑顔も多くありました。

施設には介護職員や看護師、ケアマネ等の専門職者がいます。また、日々、認知症ケアの実践を重ねています。そうした強みを喜茂別町・地域の福祉まちづくりに活かす、活かしてもらうことが、地域貢献の一つと考えます。

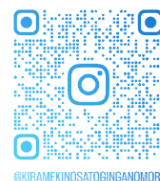
認知症を患っている方が、一人の町民として参加することができる。地域が認知症を正しく理解し支え合う風土ができる。支援や施策に反映することができる。そんなまちづくりを目標に、今後、認知症カフェを定期的で開催する予定です。和・話・輪が溢れるひと時を。



発行責任者
施設長 木下 雄一

認知症カフェの基本的なスケジュール

| | |
|----------|---------------------------|
| カフェタイム | 入場とともにコーヒー、紅茶等のサービス、自由な会話 |
| ミニ講話 | 全体の簡単な説明、講話 |
| カフェタイム | 音楽と飲み物の提供、自由な会話 |
| ディスカッション | 講話についての質問や補足 |
| クロージング | 自由な会話や個別の相談 |



©KURAMEKINOSATOGINGANOMORI

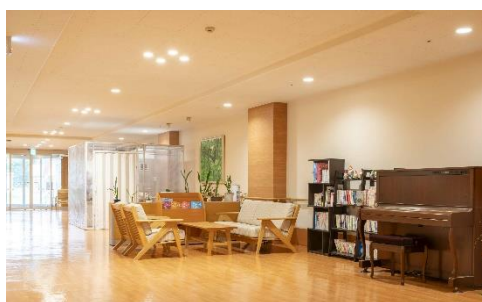
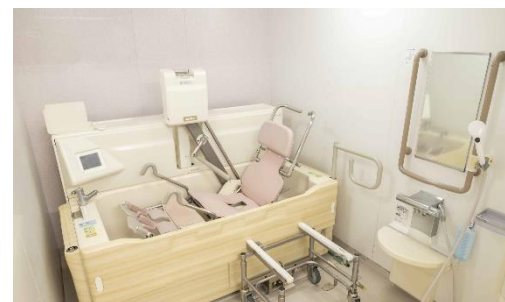
ひとりと向きあう。

社会福祉法人
溪仁会 きもべつ喜らめきの郷

「パンフレットをリニューアル。」新しいパンフレットを制作いたしました。業者の方と何度も打ち合わせを実施し試行錯誤を繰り返しやっと完成しました。写真はすべてプロが撮影し、モデルは当施設の職員とご入居者。職員一同、写真の笑顔を忘れずに、サービスの質を高めてまいります。



地域に寄り添うユニットケア。羊蹄山を望む静かな環境で留寿都村ならではの地域密着型サービスを実践。隣接の生活支援ハウスと活動も共にしています。また、当施設より地域の介護福祉士養成校などへ講師も派遣。地域融合の先に理想のユニットケアの姿があります。※この文章はパンフレットから抜粋しています。



設備も充実。「るすつ銀河の杜」として12年目を迎えます。設備も大切に使います！

デイサービスセンター採光が

最高。高い天井、壁一面の窓ガラスからは羊蹄山を望めます。大浴場もございます。見学や、一日体験のご利用も可能です。興味のある方は、ご連絡ください。



ユニットケアとは何ですか？

AIに聞いてみました！

1. 小規模生活単位（ユニット）で暮らす

- ・1ユニットは通常 10名程度
- ・入居者同士や職員との関係が安定しやすい

2. 固定した職員がケアを行う（ユニット担当制）

- ・決まった職員が継続的に関わることで、信頼関係が築きやすく、状態変化に気づきやすい

3. 個別ケアを重視

- ・起床・食事・入浴などの生活リズムをできる限り 本人のペースに合わせる。
- ・「生活の継続性」「自立支援」を大切にする

4. 家庭に近い空間づくり

- ・ユニットごとに キッチン・リビング・個室 を配置し、「施設らしさ」よりも 暮らしやすさ・落ち着きを重視。

と回答をもらいました。よりよいユニットケアが実践できるように取り組んで参ります。

//見学随時募集中//